



2018年証券アナリスト第1次試験（秋試験）

解答速報！

2018/10/12 現在

【財務分析】

第1問（34点）

問1 D 問2 D 問3 B 問4 A 問5 D 問6 A 問7 B 問8 A
問9 C 問10 C 問11 D 問12 D 問13 C 問14 B 問15 B 問16 A
問17 C

第2問（12点）

問1 C 問2 D 問3 E 問4 B 問5 A 問6 D

第3問（18点）

I

問1 B 問2 C 問3 A

II

問1 B 問2 A 問3 C

III

問1 E 問2 B 問3 E

第4問（26点）

(1)

① C ② H ③ J ④ B
ア C イ B ウ E エ A

(2)

⑤ B ⑥ H

(3)

⑦ F ⑧ J
オ B カ B

(4)

⑨ I ⑩ D ⑪ F ⑫ C ⑬ E ⑭ G ⑮ J
キ E ク A

(5)

ケ D コ D サ C

この解答速報の著作権は、TAC（株）に帰属するものであり、無断転載・転用を禁じます。

なお、この解答速報は、TAC 独自の見解に基づくものであり、正解であることを保証するものではありません。また、後日情報を更新する場合がありますので、ご質問などの受付はいたしかねます。



2018証券アナリスト1次試験（秋）

「財務分析」

2018年（秋）試験は、例年通り大問4問の出題であった。問題数および配点も近年の傾向を踏襲したものとなっていた。近年の難易度と比較すると、第4問はやや難しかったものの、他の問題は同等レベルといったところである。具体的な内容は、以下のとおりである。

第1問の正誤選択問題は、17問の出題であった。IFRSや監査、企業結合会計など一部細かな論点が見られたが、損益計算書、包括利益、キャッシュ・フロー計算書、自己株式、収益認識基準、有価証券、棚卸資産、貸倒見積高、退職給付会計、株式価値等、頻出論点も多く出題された。問題数が多いため、瑣末な問題は直接解答肢を選択できなくとも消去法を用いるなど、ある程度割り切って対応する必要があったと思われる。

第2問の個別計算問題は、6問の出題であった。経常利益、繰越利益剰余金の増加額、非支配株主持分、株式価値に関する問題は、確実に得点したい内容であった。問3の売上総利益については製造費用の流れの理解、問5のROEについては親会社株主に帰属する当期純利益の推定が必要になり、やや難易度は高かった。

第3問の総合計算問題は、9問の出題であった。Ⅰリース取引(3問)、Ⅱ減価償却(3問)、Ⅲ外貨建取引(3問)について出題された。Ⅰのリース取引については、リース債務、減価償却費、支払利息の計算と標準的な内容であった。リース料の割引計算や有権移転外ファイナンスリースの際に用いる耐用年数に注意が必要であった。Ⅱの減価償却は、内容そのものは平易であるものの、資料の項目が多く、対象となる有形固定資産を迅速に整理できたかどうかポイントであった。Ⅲの外貨建取引は、問1の二取引基準がやや細かいものの、問2、問3の外貨建有価証券に関する評価については得点したい内容であった。

最後の第4問の分析総合問題は、財務データが個別財務諸表であった点およびサステイナブル成長率、生産性分析についての出題が特徴的であった。この中でも、生産性分析は9問配分されていたため影響は大きく、労働分配率は難問のレベルであった。一方、労働生産性は、問題文と語群から推定できるように設定されており、また、付加価値額の要素については、問題に提示されていた金額が財務データにそのまま記載されていたことから、人件費等の対応する項目を選択することは容易であったと思われる。第4問は、他の収益性や安全性といった頻出論点は確実に得点したうえで、8割を確保したい内容であった。

以上

TAC 証券アナリスト講師室